

妙安寺だより 313

テレフォン法話 092-751-6

084 (毎週月曜日に話が変わります)

法華経の解説 (3)

〔序品第一 ③ 「 と 」〕

* 八つの正しい人生態度。

(正しく見ること) (正しく考えること) (正しい言葉を語ること) (正しく行動すること)
(正しく生活すること) (正しく努力すること) (正しい目的意識を持つこと) (正しく心を整えること)

妄見・妄想・暴言・悪業・規律なき生活・怠慢・無目的な生き方・迷妄に満ちた不安な心の八つの邪悪から離れて、正しい人生態度を身につけるべきであることを提示したしたものである。

「十二因縁」

十二因縁とは、人間の苦しみ・悩みがどのような条件によって成立するかを、因果関係によって説き明かされたもので、(無知) (潜在的形成力) (心の作用) (精神と物質) (六つの感覚器官、眼・耳・鼻・舌・身・意) (心が対象と接触すること) (感受作用) (愛欲・妄執) (執着) (生存) (生れること) (老いゆくこと・死ぬこと・無常の相)の十二項目である。

「六波羅蜜」

波羅蜜とは、梵語パーラミターの音写で「完成」「最高の状態」を意味し、彼岸にいたることの意味で「度」と訳され、六波羅蜜のことを「六度」ともいいます。すなわち、大乘仏教の菩薩が実践すべき六種の行である。

(与えること) 布施には、(物を与えること)、(真理をあたえること)、(安心を与えること)がある。(戒律を守ること) (苦しみに堪え忍ぶこと) (たゆまず努力すること) (精神を統一すること) (正しい智慧を得ること)で、序品のなかで、この六波羅蜜は、大乘仏教の修行の徳目としては、最も重要な教えであります。

最高の真理である「法華経」が説かれる因縁を説いた序品が終わり、次が説かれる方便品が展開されていきます。

お盆は、お釈迦さまの十大弟子の中でも神通力第一といわれた目連尊者が、餓鬼界で苦しむ亡き母を、多くの人に施す功德によって救い出したことに始まりました。

その故事にならい、先祖を供養する夏の仏教行事として、お盆は広く人々に定着しています。

目連尊者の亡き母が堕ちたという餓鬼界は、特別な場所にあるものではありません。私たちの心に「自分さえよければ」という気持ち、醜い心、それが餓鬼界なのです。

法華経には、「私たちの心は本来、蓮華のように清らかである」と説かれています。

*「」<世間の法に染まざること、蓮華の水に在るが如し>(第十五)

貪欲に満ちた自分の心を反省し、美しい蓮華の心を起こし、ご先祖さまにその姿を見せることが一番の供養ではないでしょうか。

お盆 お施 餓鬼法要 8月18日(水曜日)

正午より お齋(おとき)
午後1時より お施 餓鬼法要
午後2時より 法話

お寺にては、下記の日時に お 盆 読 誦 回 向 を行ないます。
8月13日(金) 午前11時 午後3時
8月14日(土) 午前11時 午後3時
8月15日(日) 午前11時 午後4時
御自由にお参りください。

お盆回向廻りの日程については別紙参照

※お伺いする日にちは、日程上変更はできませんのでご了承ください。

※お伺いする時間は、交通事情にて不明ですので、電話連絡されてもご返事は出来ません。

なお、ソトバ供養ご希望の方は、別紙の申込書にて早めをお願いします。

FAXにて申し込みいただけます。(FAX番号 092-751-4055)